

「読み聞かせ」

ペッツ（笹本順子）

B、沈んだ表情で座っている。

A B 読むのには自信があるんだけどなあ。

A 元放送部だもんね。

B 子供たち、全然盛り上がらないんだよね。

A うーん。とりあえず読んでみて。

B 気になるところがあったら、すぐ指摘してね。

A うん。

B、絵本を一冊とりだす。

A B （ものすごい形相と声でタイトルを読み上げる）

A もう気になった。

B え？

A いや、いきなり怖い。

B すっごい人気の絵本よ、これ。

A お母さんたちにね！

B そっか。じゃあ、違う本にする。

A うん。

B、別の絵本をとりだす。

B シンデレラ

A お！いいね。

地獄！

B

昔々、シンデレラと呼ばれている美しく心の優しい娘がいました。意地悪な継母と二人の義理の姉から毎日、召使のように扱われていました。

「シンデレラ！床を拭きなさい！」

「はい、おかあさま」

「シンデレラ！私の髪をときなさい！」

「はい、おねえさま」

「シンデレラ！早くご飯を準備しなさい！」

「はい、おねえさま。・・・私はいつまでこんな暮らしをしなければいけないのかしら。」

「シンデレラ！何やってるの！邪魔よ！」

「おとうさまさえ生きていれば・・・見栄っ張りなお母様や、欲張りで意地悪なお姉さまたちに意地悪されずに生きていけたんだわ・・・うううう、うううう。うううううう、地獄だわー！」

怖いわ。

絵？

セリフの部分がなんか子供向けじゃない気がする。

上手にやろうと思ったらさ。

もっと子供っぽい、あ、動物モノとかは？

ああ、なるほど。じゃ、これね。桃太郎。

お。

B A B A B A B A

「桃太郎さん、桃太郎さん、お腰につけたきびだんご、一つ私にくださいな」
桃太郎がきびだんごをあげると、

「これはうまい！なんだか力が湧いてきた。家来にしてください」

犬、猿、キジをお供にした桃太郎は鬼が島にたどり着きました。

「それ、かかれ！」

桃太郎たちに慌てふためいた鬼たち。

「敵は、子供と犬と猿、きびだけだ！やっつけてしまえ！」

鬼たちが一斉に向かってきました。

しかし、きびだんごを食べて力がついた犬、猿、きじたちは鬼をやっつけました。

「ひゃー、痛い助けてー！痛い痛いよー！グワーーーーー！！もうだめだあああ。
うごっゲホッグオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ。じ・・・・、地獄！」

A
グロいわ。

B、すぐに違う本を手に取り、

A B
母をたずねて
・・・・。

B、「おかあさーーーーん」と迫真の演技で続ける。呆れた目で見つめるA。

おわり